

先人の功績を称えビタミンでまちづくり

■ビタミン発見100周年記念大会

鈴木梅太郎博士がオリザニン（ビタミンB1）を発見して100年を迎えたことを記念するビタミン発見100周年記念大会は12月12日、い〜らで開催されました。

博士の生涯を描いた紙芝居「鈴木梅太郎物語」が上演されたほか、ビタミン教育模擬授業や「食と健康」についての基調講演が行われるなど、ビタミンをキーワードにさまざまな催しが行われ、にぎわいました。

11日には、地頭方小学校の校庭にある博士の胸像に市長や同校の児童らが花をささげ、博士の功績に敬意と感謝の気持ちを表しました。



↑オリザニンを発見した鈴木梅太郎博士。



↑ビタミン教育模擬授業を受ける子どもたち。



↑ビタミン大使に任命された清水エスパルスの枝村匠馬選手。



↑紙芝居「鈴木梅太郎物語」が上演。

世界でたった一つの宝物

■命の授業／片浜小学校

助産師による「命の授業」は12月13日、片浜小学校で行われ、同校の5年生13人と6年生10人が授業を受けました。

これは、生命の誕生について学ぶことを通して、子どもたちに自分を大切に、他人を思いやる心を養ってもらおうと毎年開かれているもの。

児童は赤ちゃんが生まれてくるまでの過程を模型や人形などを使って学びました。

講師の野口智美助産師は「一人一人が世界でたった一つの宝物」と命の尊さを伝えました。



↑人形で赤ちゃんを抱いた感覚を疑似体験をする児童。



↑よさこいソーランで開館5周年を祝う。

地域の人に支えられ5周年

■さがら子生れ温泉会館開館5周年記念

さがら子生れ温泉会館は5周年を迎え12月8日、記念セレモニーが開かれました。

萩間保育園の園児15人が手作りの衣装に身を包み、よさこいソーランの踊りと手話を交えた歌を披露し、式典を盛り上げました。

会館では、入館者全員に特製フェイスタオルがプレゼントされた他、抽選会なども行われました。

紅林広美副支配人は、「5周年を迎えることができたことは地域の人に支えてもらったから」と話しました。

自然薯品評会で高い評価

■牧之原自然薯ファミリー／入賞報告

県自然薯品評会で牧之原自然薯ファミリーから6人が入賞し、そのうち中嶋拓雄さん（東萩間）が県知事賞に輝きました。

入賞した皆さんは12月6日、相良庁舎を訪れ、市長にその報告をしました。

中嶋さんらは「自然薯の消費を高めるため、販売促進活動をしていきたい」と意欲を語り、市長は、「自然薯などのネバネバ食材は体に良いといわれる。市も応援していきたい」とメンバーの背中を押しました。



↑入賞の報告をする牧之原自然薯ファミリーの皆さん。



↑過去最高の成績を収めた牧之原チーム。

チーム一丸となり好成績を収める

■第11回しずおか市町対抗駅伝

第11回しずおか市町対抗駅伝は12月4日、静岡市内を舞台に開催されました。

牧之原市は、昨年の21位から順位を上げ、過去最高の19位でゴール。選手とコーチが一丸となり、練習に励んだ成果が実を結びました。

川村久雄監督（片浜）は、「コーチの選手一人一人に対する熱い気持ちが伝わり、良い成績を収めることができた。選手には、今の気持ちを忘れずに、来年に向けいい記録を目指してほしい」と話しました。

広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

パシャ！！  
ズームイン！！



秘書広報室 ☎ (23) 0044 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



↑ヤマツツジが静岡トヨベットの藤原社長（右）から市へ寄贈された。

苗木贈呈で里山づくりを応援

■楽遊会・秋の植樹祭

菅山区で里山を守る活動をしている楽遊会主催の秋の植樹祭は11月28日、西山寺で開催されました。

植樹祭では、ソメイヨシノ50本とヤマツツジ50本の苗木が静岡トヨベット株式会社（藤原政雄社長）から財団法人静岡県グリーンバンクを通じて市へ寄贈されました。

藤原社長は、「寄贈した苗木を、里山づくりに生かしていただきたい」とあいさつしました。

これらの苗木は、楽遊会により西山寺の裏山に植樹されました。

午後はシイタケの菌打ち、鳥の巣箱作りが行われ、地域の人たちでにぎわいました。